

2013年3月期 第2四半期業績概要

2012年 11月1日

アンリツ株式会社
代表取締役社長 橋本 裕一



東証第1部: 6754
<http://www.anritsu.com>



注 記

本資料に記載されている、アンリツの現在の計画、戦略、確信などのうち、歴史的事実でないものは将来の業績等に関する見通しであり、リスクや不確実な要因を含んでおります。将来の業績等に関する見通しは、将来の営業活動や業績に関する説明における「計画」、「戦略」、「確信」、「見通し」、「予測」、「予想」、「可能性」やその類義語を用いたものに限定されるものではありません。実際の業績は、さまざまな要因により、これら見通しとは大きく異なる結果となりうることをご承知おきください。

実際の業績に影響を与えうる重要な要因は、アンリツの事業領域を取り巻く日本、米州、欧州、アジア等の経済情勢、アンリツの製品、サービスに対する需要動向や競争激化による価格下落圧力、激しい競争にさらされた市場の中でアンリツが引き続き顧客に受け入れられる製品、サービスを提供できる能力、為替レートなどです。

なお、業績に影響を与えうる要因はこれらに限定されるものではありません。また、法令で求められている場合を除き、アンリツは、あらたな情報、将来の事象により、将来の見通しを修正して公表する義務を負うものではありません。

目 次

I . 2013年3月期 第2四半期 業績概要

I -1. 事業概要

I -2. 連結決算概要

I -3. 財務状況

I -4. 2013年3月期 通期見通し

I -5. 配当について

II . モバイル分野の計測ビジネス

Appendix

I -1. 事業概要

計測事業

開発・製造・建設・保守用



- ▶ モバイル市場：LTE、3G
- ▶ ネットワーク・インフラ市場：有線・無線NW
- ▶ エレクトロニクス市場：電子部品、無線設備

産業機械事業

- ▶ 食の安全・安心
- ▶ X線異物検出機
- ▶ 重量選別機



その他

- ▶ IPネットワーク機器
- ▶ 光デバイス



(セグメント別売上比率:2012年3月期 実績 936億円)

計測 75%			産業機械 15%	その他 10%
モバイル 45%	ネットワーク・インフラ 30%	エレクトロニクス 25%		

(計測事業 地域別売上比率)

日本 30%	アジア、パシフィック 30%	米州 25%	EMEA 15%
-----------	-------------------	-----------	-------------

I-2. 連結決算概要 - 事業別状況 -

モバイルブロードバンドサービスを成長ドライバとして
計測事業が堅調に推移

セグメント	2013年3月期 第2四半期の状況
計測	・モバイル:LTE開発用、スマホ製造用需要が継続 ・ネットワークインフラ:無線インフラを中心に堅調
	・日本:モバイル関連に集中投資あり ・アジア:製造用投資は堅調 ・米州:LTE開発、無線インフラが堅調
産業機械	国内外ともに堅調
その他	総じて堅調に推移

I -2. 連結決算概要 - 第2四半期業績サマリー -

増収増益

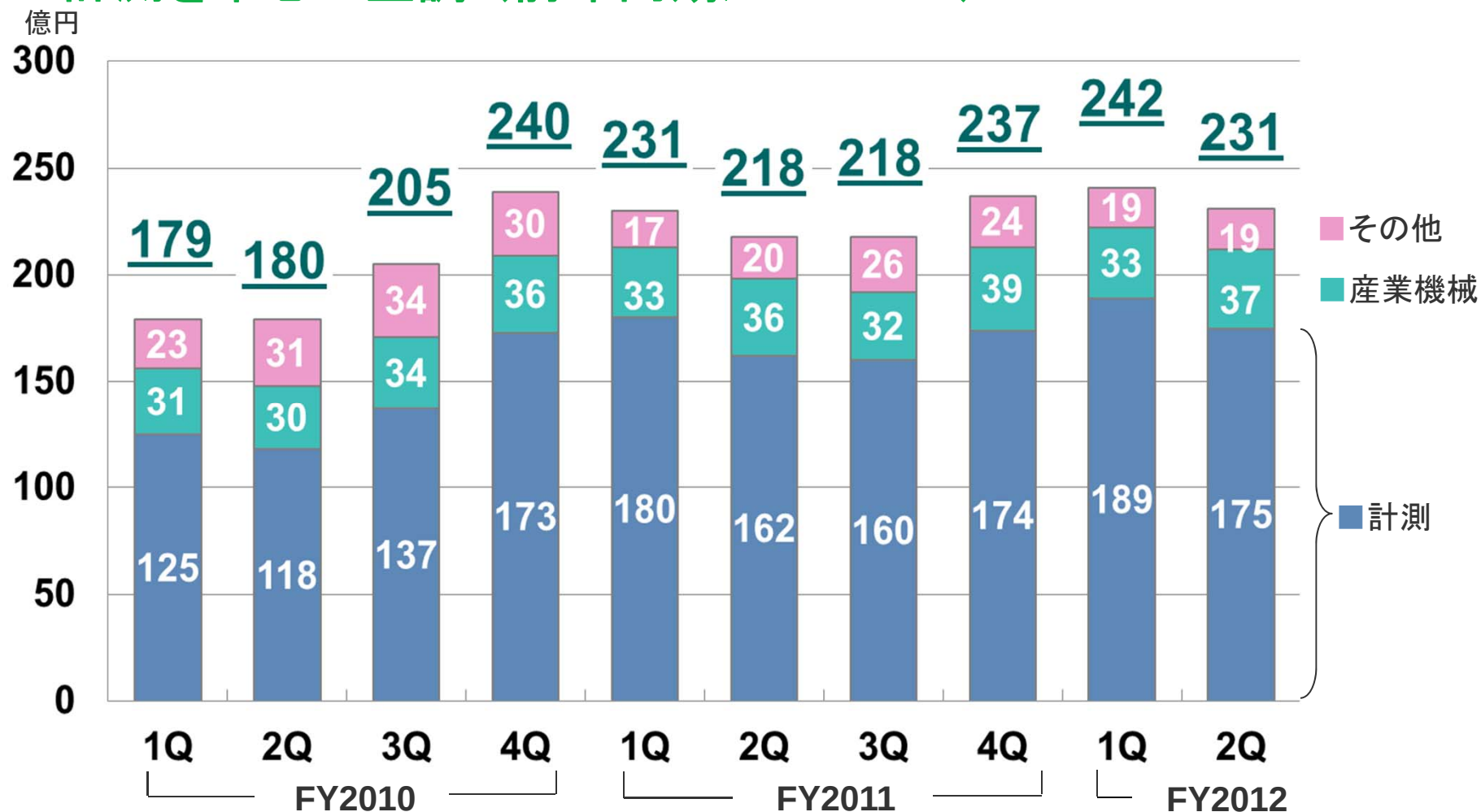
(単位: 億円)

	前第2四半期 連結累計期間 (4-9月)実績	当第2四半期 連結累計期間 (4-9月)実績	前年同期比 増減額	前年同期比 増減率(%)
受注高	449	473	24	5%
売上高	447	463	16	4%
営業利益	75	87	12	17%
税引前利益	65	81	16	25%
当期利益	47	69	22	47%
当期包括利益	35	61	26	75%
フリーキャッシュフロー	63	47	△ 16	△25%

(注) 値はそれぞれの欄で四捨五入

I-2. 連結決算概要 - 受注高推移 -

計測を中心に堅調（前年同期比 +8.0%）



（注）値はそれぞれの欄で四捨五入

I-2. 連結決算概要 - 事業別売上高・営業利益 -

計測事業のモバイル関連ビジネスがけん引

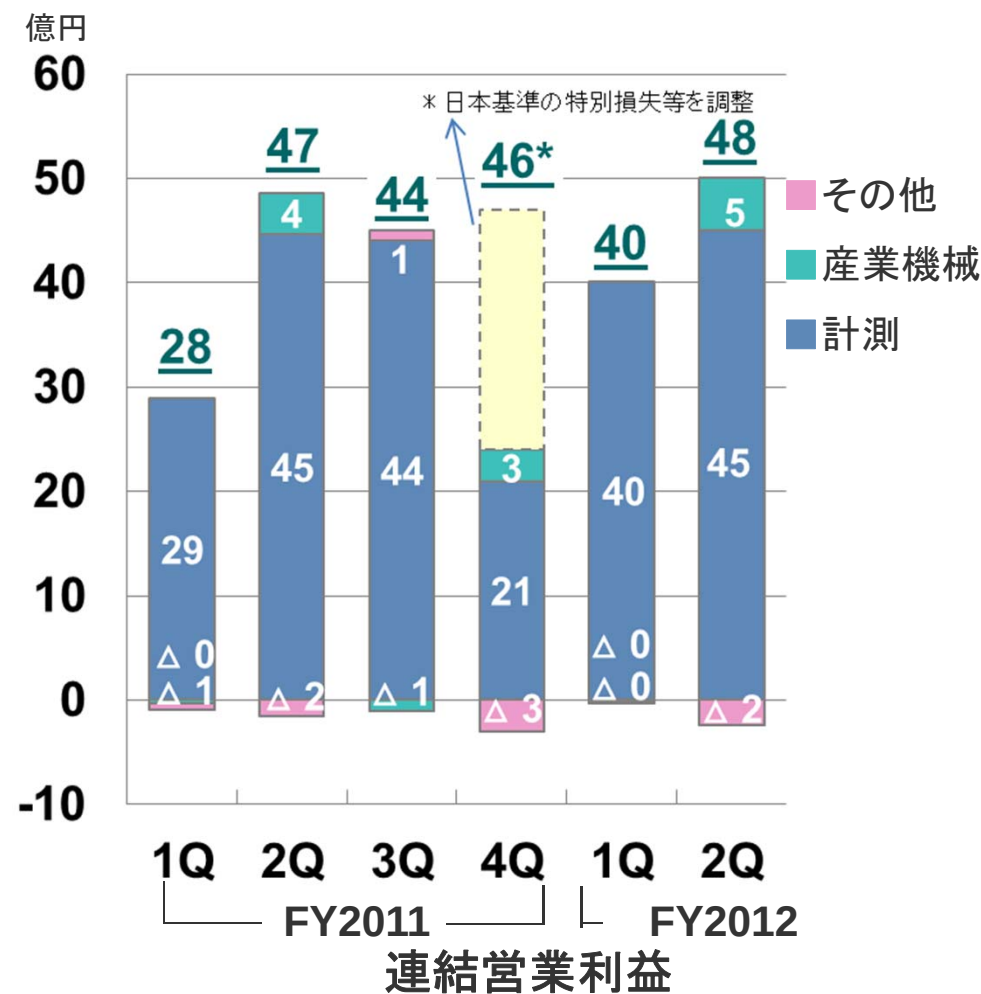
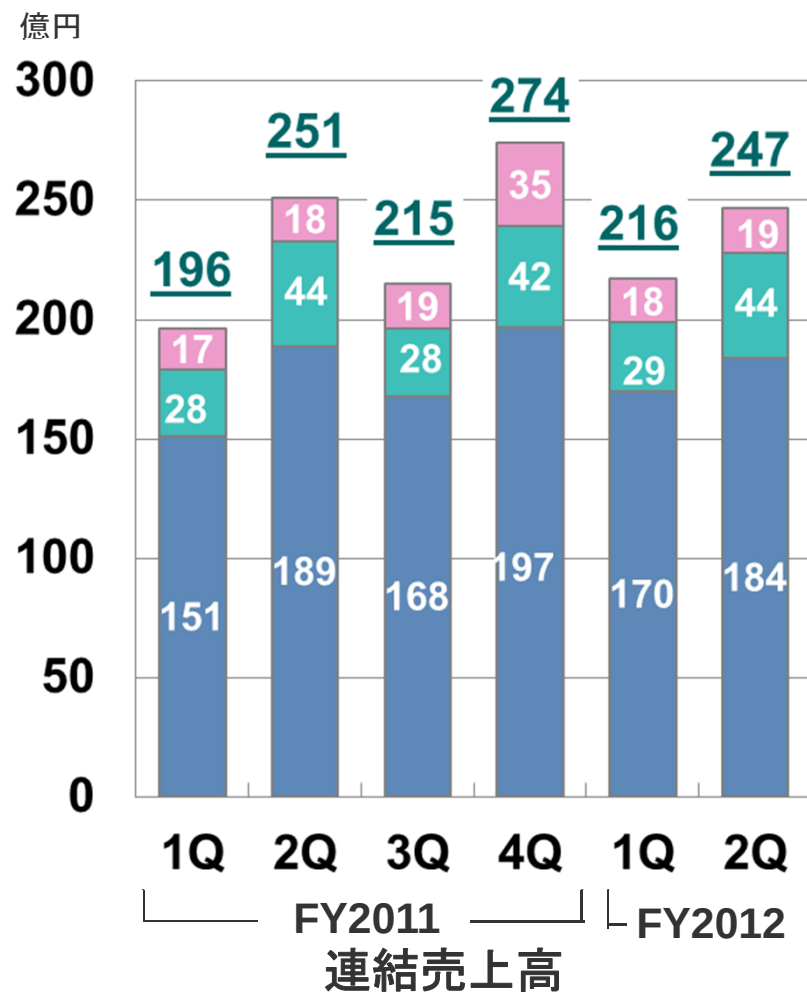
(単位: 億円)

		前第2四半期 連結累計期間 (4-9月)実績	当第2四半期 連結累計期間 (4-9月)実績	前年同期比 増減額	前年同期比 増減率(%)
計測	売上高	340	354	14	4%
	営業利益	74	85	11	16%
産業機械	売上高	72	72	0	0%
	営業利益	4	5	1	32%
その他 (含: 内部消去)	売上高	35	37	2	7%
	営業利益	△2	△2	0	13%
合計	売上高	447	463	16	4%
	営業利益	75	87	12	17%

(注) 値はそれぞれの欄で四捨五入

I-2. 連結決算概要 - 四半期毎 売上高・営業損益 -

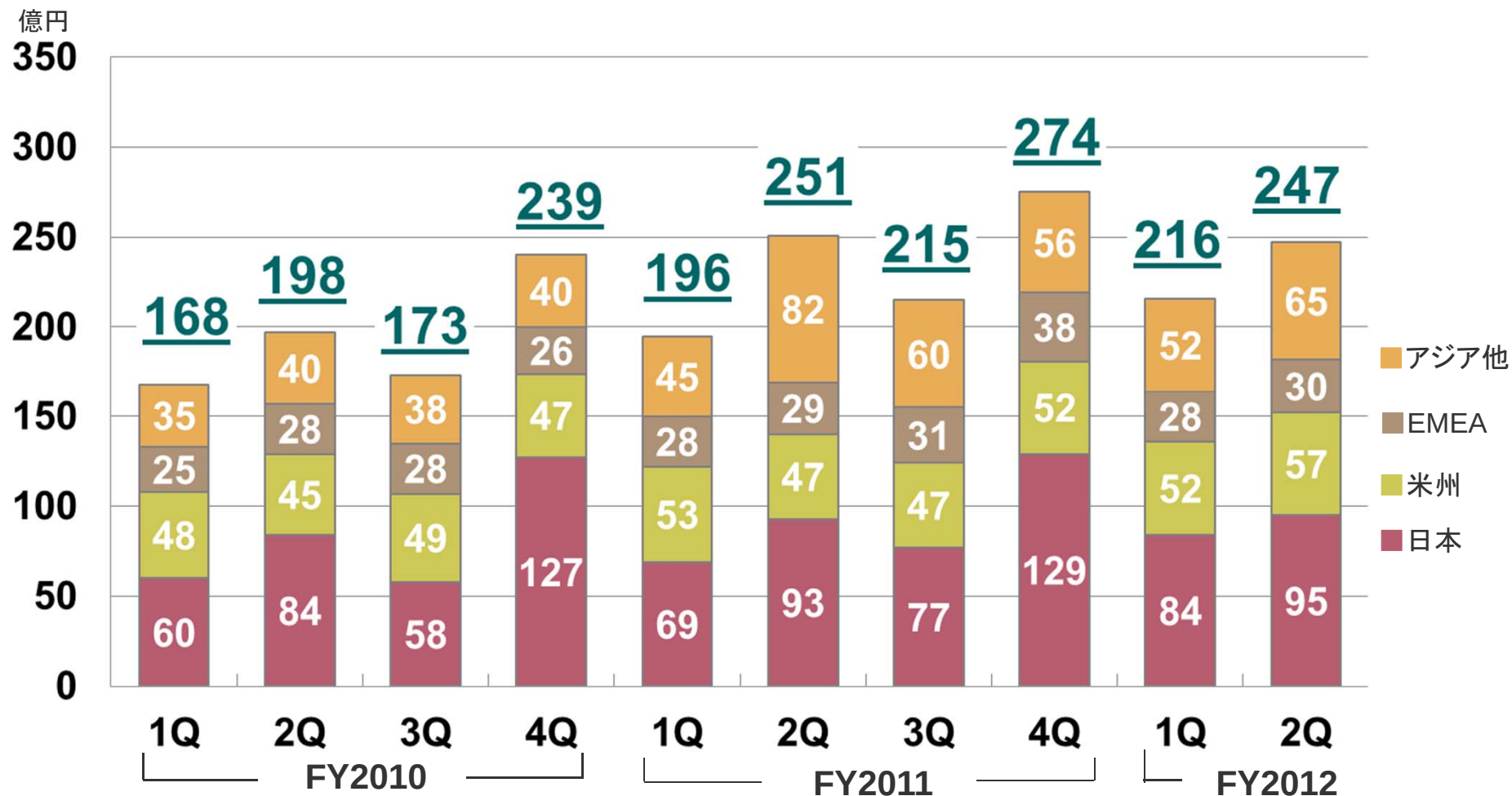
2Q(7月～9月期)の売上高、営業利益ともに順調に進捗



(注) 値はそれぞれの欄で四捨五入、FY2011 3Qおよび4QはIFRS未監査(参考)

I-2. 連結決算概要 - 地域別売上高推移 -

全地域で順調



(注) 値はそれぞれの欄で四捨五入、FY2011 3Qおよび4QはIFRS未監査(参考)

着実にキャッシュフローを創出

内訳

単位:億円 △減少

FY2012 2Q(累計)

①営業CF: 72億円

②投資CF: $\Delta 25$ 億円

③財務CF: Δ 58億円

フリーキャッシュフロー

(①+②): 47億円

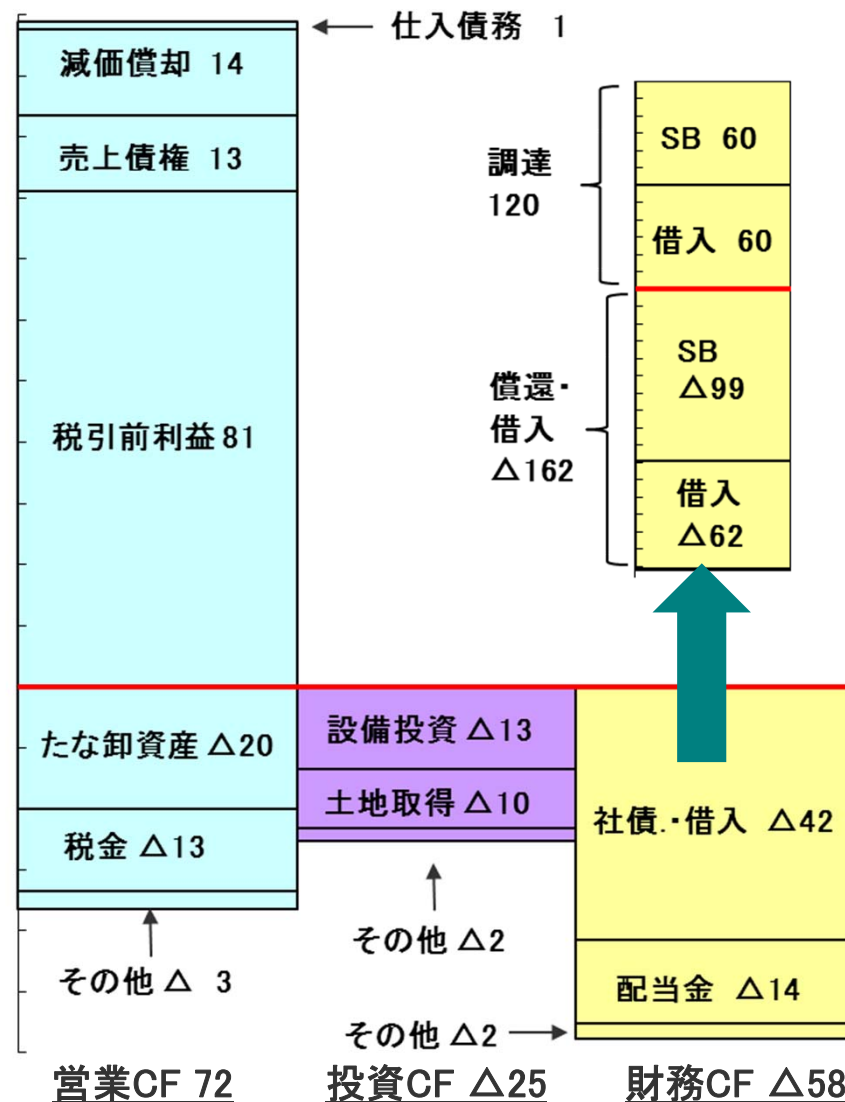
現金同等物期末残高

379億円

有利子負債高

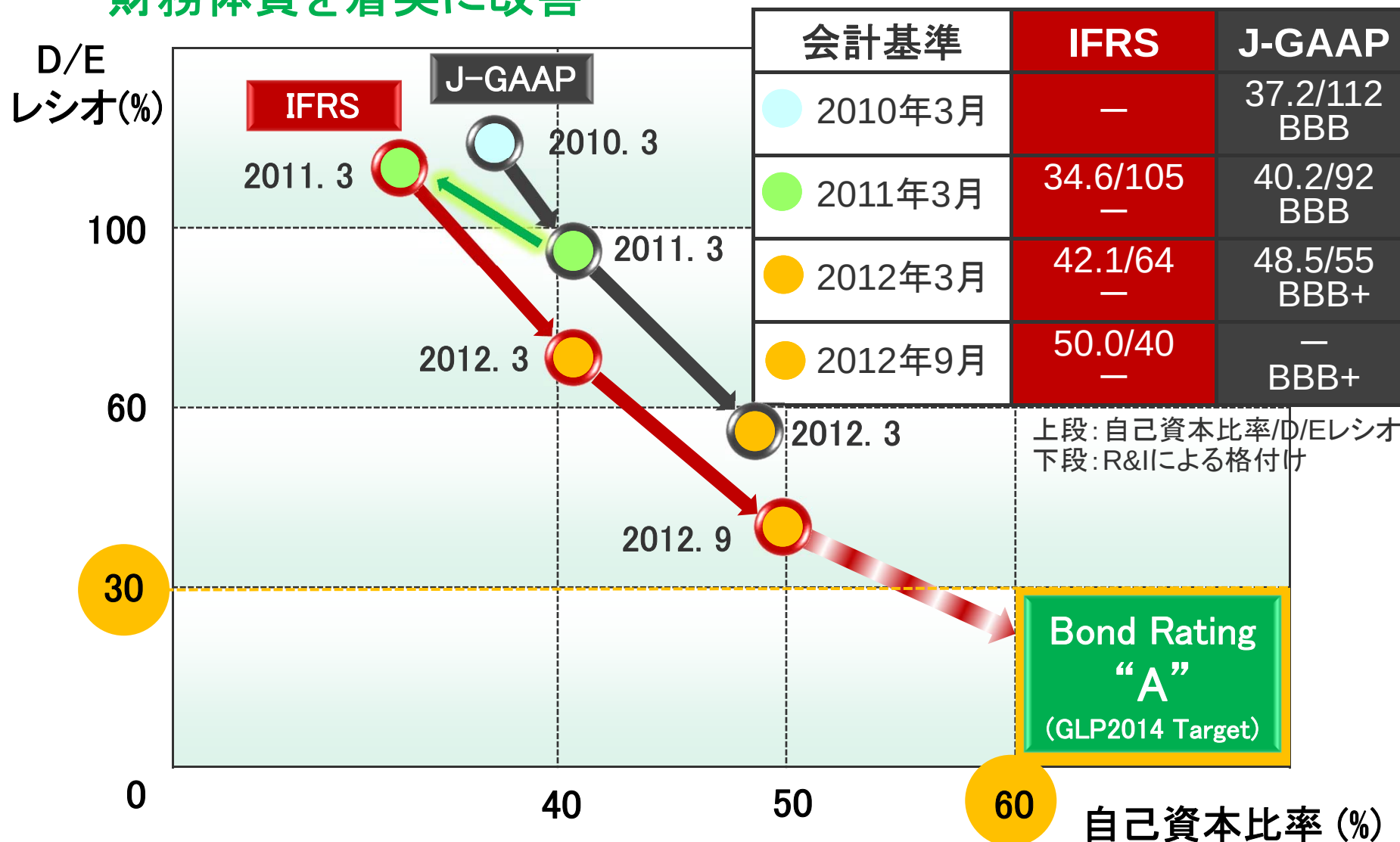
223億円

(注) 値はそれぞれの欄で四捨五入



I-3. 財務状況

財務体質を着実に改善



I -4. 2013年3月期 通期見通し(連結) : IFRS

計測の営業利益を上方修正

(単位：億円)

		2012/3期	2013/3期		
		前期実績 (IFRS監査済)	通期予想 4/26発表	通期予想 今回	前期比 増減額
					前期比 増減率(%)
売上高		936	945	945	9
営業利益		140	155	165	25
税前利益		131	145	155	24
当期利益		80	100	120	40
計測	売上高	706	700	700	△ 6
	営業利益	138	140	150	12
産業機械	売上高	142	150	150	8
	営業利益	6	10	10	4
その他*	売上高	89	95	95	6
	営業利益	△ 4	5	5	9

(注) 値はそれぞれの欄で四捨五入

2013/3月期から情報通信事業セグメントを、その他セグメントに統合しています。

(参考) 想定為替レート: 1米ドル=80円
1ユーロ=100円

I -5. 配当について

年間配当：増配

15円 → 17円（中間配当7.5円、期末配当9.5円）

配当方針

株主の皆さまへの利益還元策として、連結当期利益の水準に応じて、DOE（日本会計基準における連結純資産配当率）を上昇させることを基本に、事業環境などの諸般の事情を総合的に考慮して決定しています。

（※ CB転換（コールオプション行使）後の発行株式数 143,956千株）

Ⅱ. モバイル分野の計測ビジネス

Ⅱ-1. モバイルブロードバンド市場の急成長

Ⅱ-2. LTE関連の開発テーマとLTE商用化

Ⅱ-3. スマートフォンの開発テーマと計測ソリューション

Ⅱ-4. モバイル開発向けビジネス

Ⅱ-5. 製造の課題と計測ソリューション

Ⅱ-6. モバイル製造向けビジネス

Ⅱ-1. モバイルブロードバンド市場の急成長

通信方式の進化
スマホの普及
サービス、コンテンツの拡大
データトラフィックの増大



相互作用することにより、モバイルブロード
バンドサービス市場が急成長
(スマホがPCの機能を代替)

ビジネスチャンス: **LTE、データオフロード等**



Ⅱ-2. LTE関連の開発テーマとLTE商用化

現状、課題となっている開発テーマ		イベント
LTE	VoLTE*	2013末までに195事業者が開始 (FDD/TDD)、以降も商用化が継続
	TDD-LTE	China Mobile 2013年 商用化
LTE Advanced	キャリアアグリゲーション (CA)*	AT&T、Sprint 2013年 商用化 NTT DoCoMo 2016年度 商用化

(注) VoLTE (Voice over LTE): LTE通信方式での音声通話。現在のLTEスマートフォンの音声通話は3G通信方式を活用。
キャリアアグリゲーション (CA): より高速な通信を行うために、周波数帯域を束ねた通信機能。
MIMO (Multiple Input Multiple Output): 複数の送信用および受信用アンテナを使用し、通信帯域を広げる通信技術。

Ⅱ-3. スマートフォンの開発テーマと計測ソリューション

開発テーマ		動向
スマートフォン	商用開発に向けた パフォーマンス試験（スループット、消費電流、・・・） OSバージョンアップ時の動作検証	スマートフォン、タブレット端末の普及拡大 無線モジュールなどが多くの機器に使用される
タブレット端末		

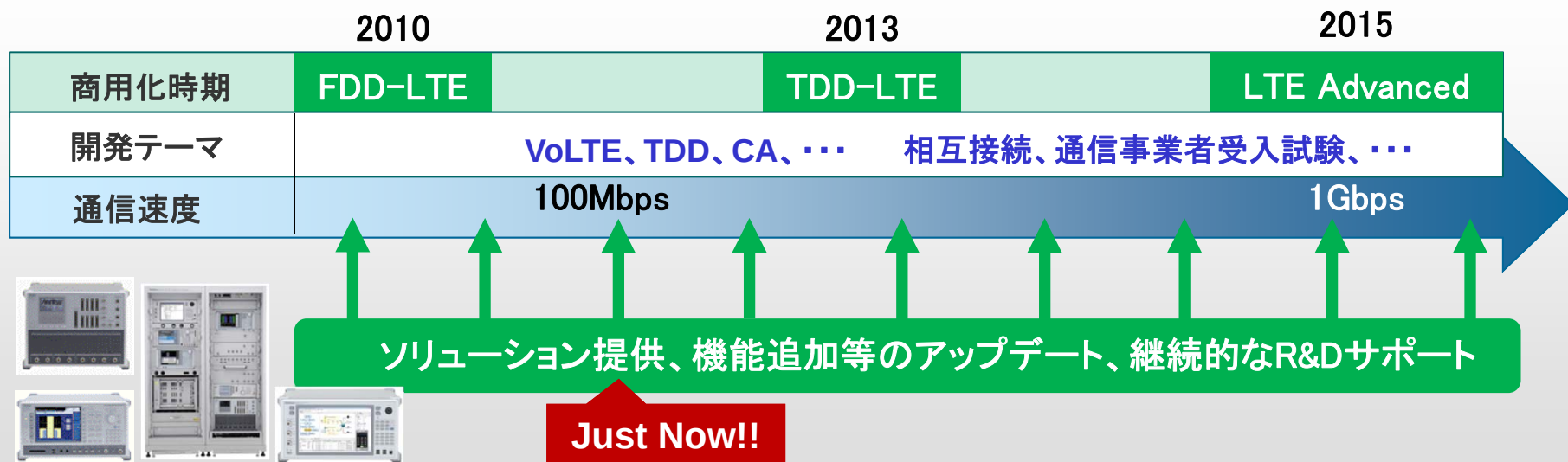


2G/3G/LTEのマルチ通信規格に対応。
ユーザーフレンドリーなインターフェースにより
簡単な操作で通信状態の多角的な評価が可能。

Ⅱ-4. モバイル開発向けビジネス: 需要継続

顧客の開発支援による継続ビジネスの確保

主な顧客: ベンダー (チップセット、ハンドセット)



Ⅱ-5. 製造の課題と計測ソリューション

	テーマ	動向
製造	スマホ、タブレット、無線モジュールの量産化・生産性の向上 シーケンス計測	3G/LTE計測に加え、GPS、SRW*（無線LAN、Bluetooth）、NFCを1ボードや1チップに搭載

(注) SRW(Short Range Wireless): 無線LANやBluetoothなどの短距離無線通信、10m～100m程度。
NFC(Near Field Communication): 近距離無線通信、SRWよりも距離の短い非接触通信。



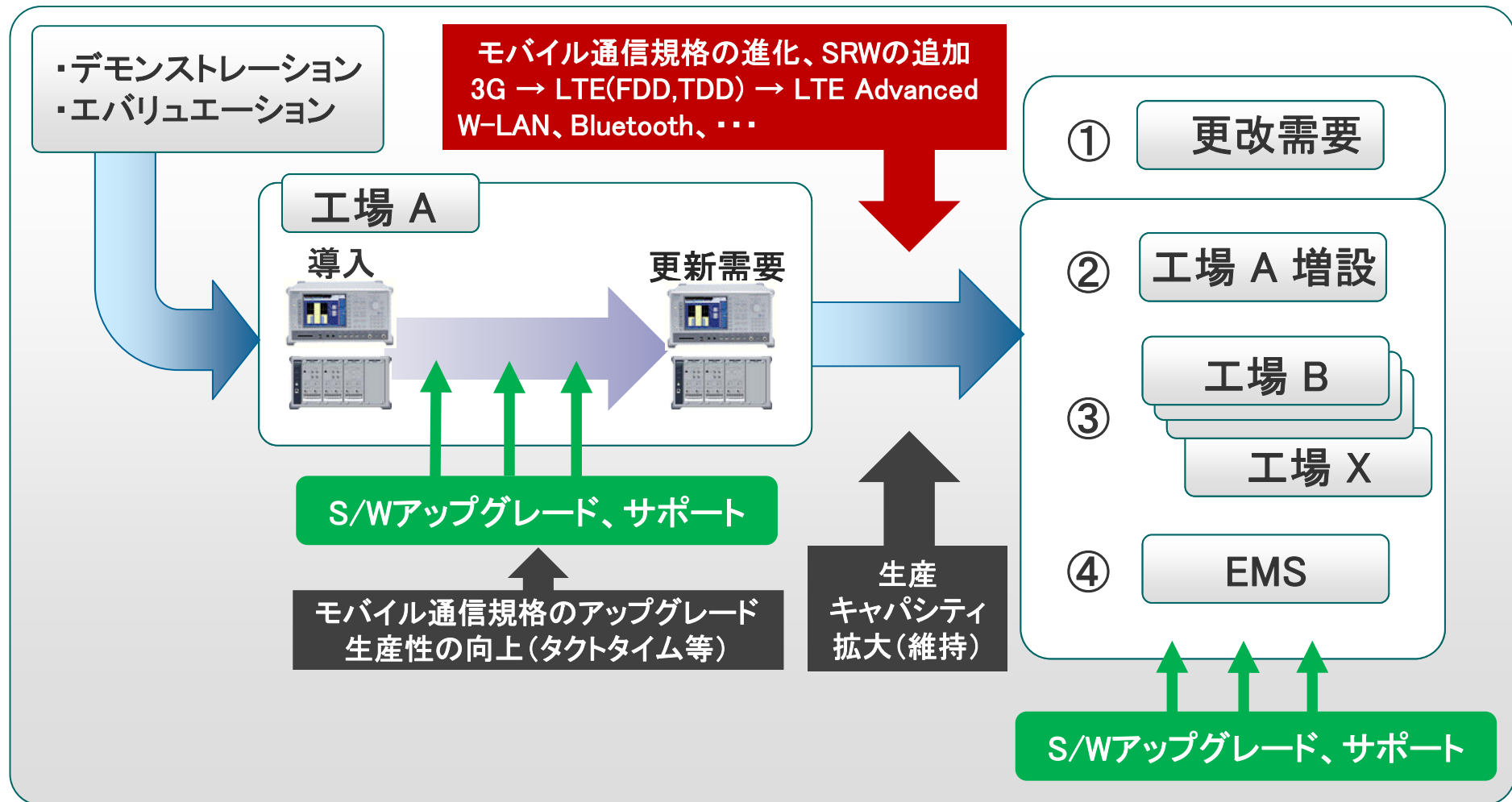
セルラー通信規格(3G/LTEなど)に特化した
呼接続による無線機テスト。
FDD-LTEおよびTDD-LTEをカバー。



SRWおよび3G/LTEの測定が可能、かつ、
4モジュールを同時に計測可能。
シーケンス計測によりタクトタイムの優れた計測器。

Ⅱ-6. モバイル製造向けビジネス: 需要拡大

顧客の生産性向上によるリピートビジネス獲得



Appendix

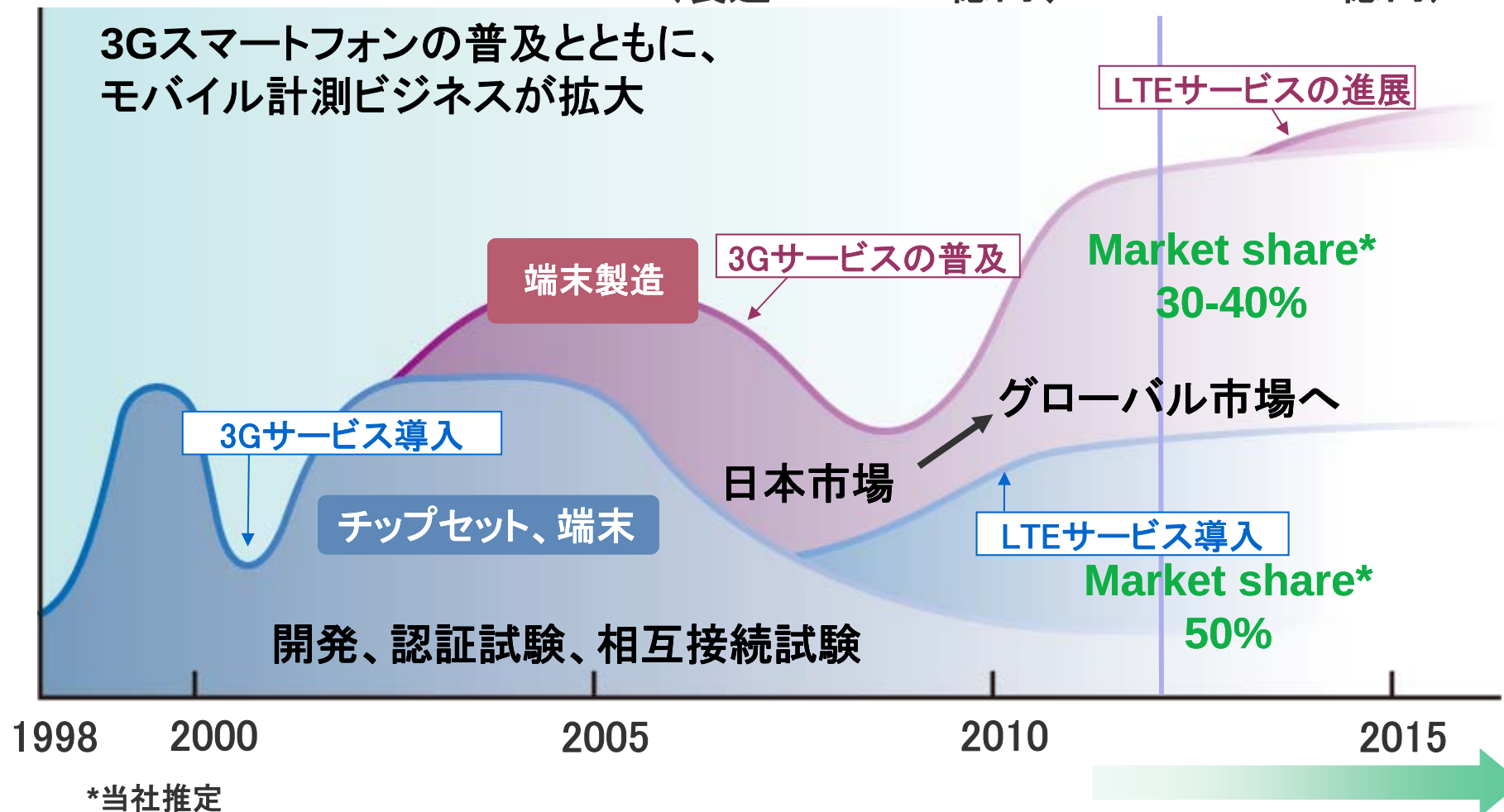


Appendix (1) - モバイル計測ビジネスのトレンド -

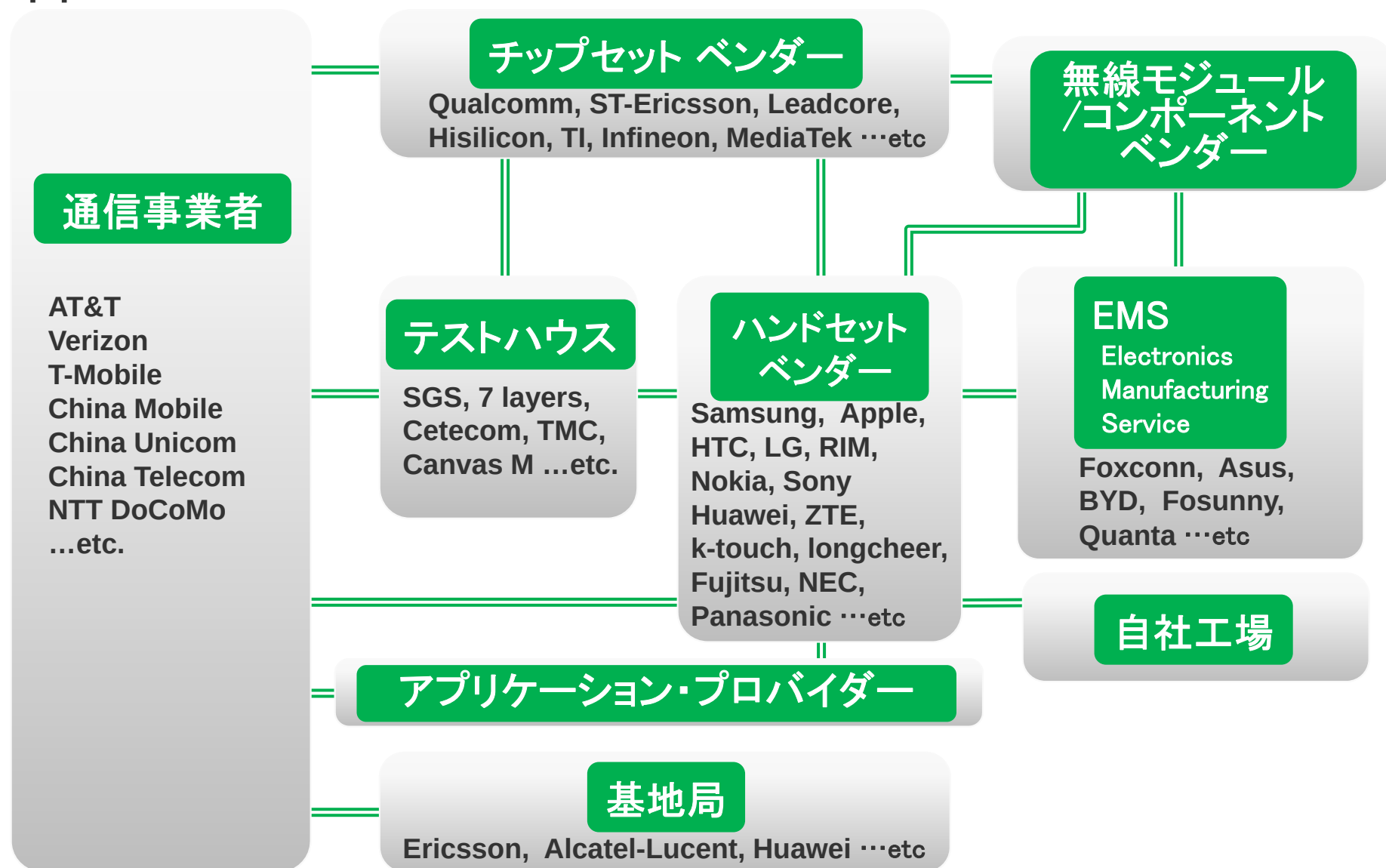
モバイル計測市場(当社推定):1,000-1,100億円

売上高

(製造:700-800億円、R&D:200-300億円)



Appendix (2) - モバイル通信市場の業界構造 -



Appendix(3) - 3ヵ年経営計画 GLP2014 目標数値 -

2020
VISION



GLP2014

指標		FY2011	FY2012 (2012年4月)	FY2014
売上高		936 億円	945 億円	1,100 億円
営業利益		140 億円	155 億円*2	190 億円
当期利益		80 億円	100 億円*2	130 億円
ROE		19.5 %	20 %	20 %
ACE*1		52 億円	70 億円	90 億円
計測	売上高	706 億円	700 億円	800 億円
	営業利益	138 億円	140 億円*2	160 億円
産業機械	売上高	142 億円	150 億円	180 億円
	営業利益	6億円	10 億円	15 億円

(注) *1 ACE (Anritsu Capital-cost Evaluation) : 税引後営業利益－資本コスト

*2 FY2012 計画値 : 修正情報あり(2012年10月)

2020 VISION



Anritsu

Discover What's Possible™